

2017

BUSINESS REPORT

第66期 報告書
2016.4.1~2017.3.31

株主の皆さまへ

「人の呼吸に もっとやさしく」

株主の皆さまには、日ごろから格別のご支援、ご愛顧を賜り有難く厚くお礼申し上げます。

ここに当社第66期の業績についてご報告申し上げるにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

おかげさまで持ちまして第66期につきましては、前期を上回る業績をあげることができました。

第67期は成長戦略"Decade Strategy 2020"を構成する現・中期経営計画の最終年度にあたります。当社グループのさらなる利益成長を図るべく、前期に引き続き、「質の重視」を経営の基本方針として、さらにその取り組みを前進・加速させてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

大成温調株式会社
代表取締役社長 水谷憲一



新しい経営陣のご紹介

代表取締役社長 水谷 憲 一

取締役専務執行役員 奥山 徹

取締役常務執行役員 野口 光 男

取締役常務執行役員 小熊 和 彦

取締役常務執行役員 志田 憲 彦

取 締 役 河村 和 平 ※

取 締 役 大久保 和 正 ※

取 締 役 公文 敬 ※

取 締 役 伏見 幸 洋 ※

※監査等委員

注) 大久保和正氏、公文敬氏および伏見幸洋氏は社外取締役であります。

スペシャル対談



代表取締役社長

水谷 憲一

インタビュアー
一橋大学大学院 国際企業戦略研究科
特任准教授

山岡 三四郎

社長就任から3年目を迎えるにあたって「人づくり」というぶれない姿勢の貫徹と2020年以後を見据えたプロローグとしての新たな3ヵ年の計画の端緒を水谷社長にインタビューしました。

山岡：大幅な増収増益を達成した就任1年目に続き、2年目の舵取りとなった17年3月期も、6%増収34%営業増益を達成されました。背景や要因を含めて振り返りをお願いします。

水谷： おかげさまで期初に想定していた計画を売上・利益の両面で大幅に上回ることができ、18年3月期を最終年度とする現行中期3ヵ年計画の達成も十分視野に入ってきました。好調な国内市場環境における追い風を着実に捉え、しっかりと業績数値に結びつけることができ、パートナー企業の皆さまや従業員に心より感謝しております。

旺盛な需要にお応えしながら、いかに品質を落とさずに効率を追求し最短距離で目的を達成するか、という意識が社内に浸透し始めたことも業績を下支えしています。社長就任直後から「人件費効率」(注)という独自の指標をベースに働き方の改革を推進しています。導入初年度の16年3月期には、いきなり過去5年の実績平均を大幅に上回る成果が生まれたことから、17年3月期は踊り場となることも想定していましたが、フタを開けてみると、さらに5%近く生産性が改善されました。品質を犠牲にした無理な効率化は絶対に回避しながらも、「限りある資源をより価値の高い仕事に振り向ける」という企業風土が、少しずつ根づき始めていると心強く感じています。

スペシャル対談

山岡：オリンピック開催も手伝って今後もしばらく国内の設備投資は好調に推移するのではないかという予想も多い中、一時的に「量を優先する」という経営的な判断もあり得ると思うのですが。

水谷： 当社単体で物事を捉えた場合、やはり建築設備業界はアップダウンの波による影響を避けることは難しいと考えます。1990年前後の好景気時には、弊社を含め業界各社がこぞって雇用を増やしボリュームを追求する経営を行ったのですが、景気が下降局面に入ると一気に状況が厳しくなったと聞いています。中長期的な業績伸長や雇用に責任を持つ立場として、常に自己を戒めながら舵取りをしていきたいと考えています。また現実問題として「量」を優先したいと考えたとしても、新卒・中途ともに若い世代の市場は逼迫しています。大成温調の中長期的な将来を見据えると、従来の発想では成長を語る事が難しくなっており、ビジネスモデルの変革も進めていかなければなりません。



山岡：ビジネスモデルの変革という意味では、水谷社長は就任前の役員時代から「脱 自前主義」の必要性を語っておられました。あらためて、その真意をお聞かせ下さい。

水谷： 社員単位でも会社単位でも、てっとり早くて安心なのは「自分たちの手で全てに取り組む」ことです。弊社も、こうした自前主義的な仕事の進め方を通じて発展してきたわけですが、これからは「自分たち以外の担い手を育て活用していく」という努力をしなくては業績伸長も望みにくく感じています。「人のふんどしで相撲をとる」と言うと失礼ですが、提携や協業といった枠組みを整えながら社外に信頼できるリソースをしっかりと築く必要があります。その上で、貴重な資源である自前の技術者たちは「手」以上に「自分以外の資源」を動かす精鋭部隊としての価値を高めていくことが求められています。

私は、日頃から社員に対して「設備業界のスイスになろう」と呼びかけています。スイスは国の規模としては小さいものの、主要産業の一つである精密機械工業を中心に国民一人当たりの生産性が高く、品質の高いモノづくりを行っている少数精鋭型の一面を持つ国です。弊社も無理なシェア拡大やコスト削減に頼るのではなく、付加価値の高い企業構造へ転換していきたいと考えており、先に述べた「人件費効率」の指標もこうした方針に基づいて導入しました。また、外部の調査機関にお願いして協会会社様に弊社をご評価いただいたり、社内の教育プログラムを公開・共有する等、信頼に基づく強固なパートナーシップを築くための取り組みを今後ますます加速させ、グループ内外が一体となって質の高い仕事を納めるというゴールに向かって取り組んでいければと考えています。

山岡：「脱 自前主義」は、海外展開においても軸となる考え方の一つとして成果を生み出しつつあるようですね。

水谷： 自社のリソースを使って展開を図ってきたインドや中国市場に関しては、その成果と課題について点検を進めています。一方で、現地の有力企業への資本参加という新たな展開スタイルの先駆けとなったベトナムの持

分法適用会社・シーレフィコでは、3年間で築いた相互の信頼関係をベースに多くの成果が生まれています。また、これとは別にベトナムでは、通信手段やソフトウェアの開発・進展を活かし、現在日本国内で行っている基本的な見積り業務等のプロセスを移管するという「日本向け海外事業」の取り組みもスタートさせています。長期的には技術系だけでなく事務系にも海外の優秀なリソースを活用し、自前の社員は、より付加価値の高い業務に邁進する体制を築いていければと期待しています。



人材育成という観点では、私が役員時代に関連会社を通じて採用したネパール人社員が、4年間の雇用期間を経て「1級管工事施工管理技士」という日本の国家試験に合格するという嬉しいニュースもありました。入社当初は日本語もままならなかった若者が見事に難関を突破し、今年からは大成温調本体で、その高い技術力やコミュニケーション能力を活かしてもらいます。彼らは、いずれ海外諸国で独立した事業を営む志を持っています。大成温調としても、その志をバックアップし、将来的には強力なタッグを組む現地でのお相手として共に成長できる日が来ることを楽しみにしているのです。

山岡：すでにスタートしている18年3月期について、抱負をお聞かせ下さい。

水谷： 現行の3カ年計画で見込んだ目標をほぼ達成しつつある中で、今期は次なる3カ年（19年3月期～21年3月期）計画や、その先の2020年代・2030年までをも見据えたプロローグとして、中長期戦略を実現していくための土台をしっかりとつくる年にしたいと考えています。ICT（情報通信技術）やIoT（モノのインターネット化）を活かした生産性の向上、人事制度の再設計などへの取り組みも強化しながら、足許の年度計画達成にむけて、着実な経営を進めてまいります。

山岡：最後に、株主の皆さま方へのメッセージをお願いします。

水谷： 社内外から「2020年のあとはどうなりますか」という質問をいただく機会も多いのですが、私は、やるべきことをしっかりとやっていけば必ず明るい将来が拓けると考えています。こうした考え方や具体的な施策、進捗についても、今年はぜひ会社説明会などを通じて株主の皆さまと対話させていただきたいと願っています。また株式会社のトップとして、資金効率については常に意識を持っています。持続的な成長と還元のバランスを大切にしながら、さらなる企業価値の向上に努めてまいります。株主の皆さまの、変わらぬご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。

(注) 「人件費効率」

「付加価値÷投入人件費」で算出した当社の独自指標。「人的資源の投入1円あたりでどれだけの付加価値を生み出したか」との考え方にに基づき、生産性を図る共通指標としています。

事業内容

大成温調は建物の新築、保守・修理・小工事、リニューアル工事および省エネ、節電提案等の環境改善を行う総合設備工事会社です



私たちは世界に跳躍^{はばた}く、総合設備のプロフェッショナルグループを目指します。
-Global Facility Solution Group-

2017年3月
竣工



国立がんセンター（東京都）

2016年10月
竣工



東大和市給食センター（東京都）

連結財務諸表 (要約)

■ 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	平成28年3月31日現在	平成29年3月31日現在
資産の部		
流動資産	34,946	35,519
有形固定資産	4,126	4,105
無形固定資産	132	130
投資その他の資産	4,021	4,378
資産合計	43,228	44,134
負債の部		
流動負債	22,640	21,505
固定負債	1,129	1,302
負債合計	23,769	22,807
純資産の部		
資本金	5,195	5,195
資本剰余金	5,087	5,077
利益剰余金	8,722	10,294
自己株式	△389	△390
その他有価証券評価差額金	609	1,003
為替換算調整勘定	334	183
退職給付に係る調整累計額	△101	△37
純資産合計	19,458	21,326
負債純資産合計	43,228	44,134

■ 連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	平成27年4月1日から 平成28年3月31日まで	平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで
売上高	56,151	59,833
売上原価	49,875	52,856
売上総利益	6,276	6,976
販売費及び一般管理費	4,561	4,671
営業利益	1,714	2,304
営業外収益	229	332
営業外費用	82	218
経常利益	1,861	2,418
特別利益	413	342
特別損失	243	5
税金等調整前当期純利益	2,031	2,755
法人税、住民税及び事業税	760	775
法人税等調整額	89	13
当期純利益	1,181	1,967
親会社株主に帰属する当期純利益	1,181	1,967

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

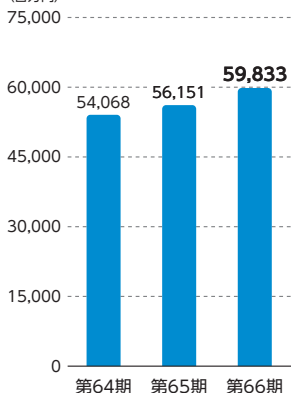
(単位：百万円)

科目	平成27年4月1日から 平成28年3月31日まで	平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	498	5,196
投資活動によるキャッシュ・フロー	385	△135
財務活動によるキャッシュ・フロー	△466	△404
現金及び現金同等物に係る換算差額	△60	△60
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	356	4,595
現金及び現金同等物の期首残高	8,157	8,514
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	54
現金及び現金同等物の期末残高	8,514	13,164

記載数字は、表示単位未満の端数を切り捨てております。

○売上高

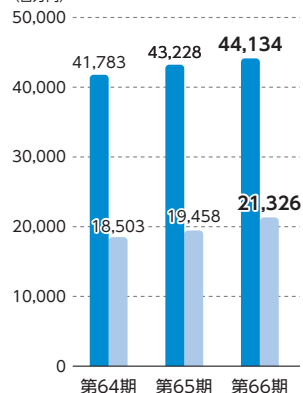
(百万円)



○総資産・純資産

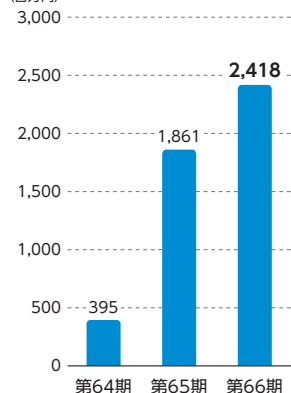
(百万円)

●総資産 ●純資産



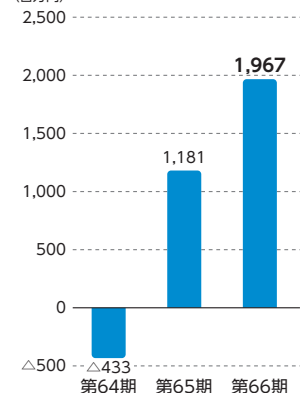
○経常利益

(百万円)



○親会社株主に帰属する当期純利益

(百万円)



当社のHPでは、詳細なIR情報を掲載しております。

<http://www.taisei-oncho.co.jp/ir/>

TOPICS

大型コージェネレーションシステムを導入(シェラトンワイキキホテル)



ハワイ州に拠点を構える当社のグループ子会社「アラカイメカニカル社」が、オアフ島の人気ホテル「シェラトンワイキキホテル」のコージェネレーションプロジェクトを手がけました。

アラカイ社が担当したのはコージェネレーションシステム、自家発電装置、温水発生装置、冷水発生装置により構成されるプラント工事の設計と施工です。

コージェネレーションシステムを導入する前のホテルは、毎年2億5千万KWを超過する電気量を消費し、年間費用に換算して800万ドル(8億9,752万円)*を超過する約22万英国熱量単位のボイラー焚き用ガスを消費していました。

コージェネレーションシステムにより、実質的に使用する電気を自家発電することで、経済的、環境的に利益をもたらすことができるとともに、同システムが既存のヒートポンプに代わって温水を供給することができるため、ホテルの全般的な電気消費量を削減させます。

このプロジェクトでは、初めの10年間、直接光熱費を1,300万ドル(14億5,847万円)*以上節約できるほか、CO₂排出量を24%以上削減、新規取り付け機器にかかる支出をカットすることで、更に518万ドル(5億8,114万円)*の節約が見込まれています。

今回の新コージェネレーションシステムの建設と運転の成功により、州内の他の物件においても、新規展開に繋がることが期待されています。

*1ドル=112.19円(2017年3月末日レート)で換算しております。



コージェネレーションシステムとは

コージェネレーションシステムは熱源より電力と熱を供給するシステムであり、電力と廃熱の両方を有効利用することでCO₂排出量の削減、省エネルギーによる経済効果が期待できるシステムです。

ベトナムに積算子会社を設立

2017年3月、ベトナム ホーチミン市に関係会社「TOP ENGINEERING VIETNAM COMPANY LIMITED」を設立しました。

経営課題の一つとして業務の質的向上を目指す当社では、ビジネスプロセスの一部を海外へアウトソーシングすることを進めており、今回の海外現地法人の設立はその第一歩となるものです。

ビジネスモデルとしては、これまで国内で処理していた積算業務の一部を「TOP ENGINEERING VIETNAM COMPANY LIMITED」に移管し、国内では成果物の最終確認と、それに基づいたプレゼンテーションに専念するというもの。将来的にはCADや設計業務も移管できるようにしていく考えです。



TOPICS

中国連結子会社が、建築ライセンスを取得

当社グループの中国連結子会社、「大成温調機電工程（上海）有限公司」は中国国内において設備工事業を展開していましたが、本年2月に建築3級の資質申請に合格したことにより、建設工事の受注ができるようになりました。

CSR活動の展開

大成温調グループは、すべての社員および役員が企業市民としてその社会的責任（CSR）を果たし、広く社会からの信頼を獲得していくことを目指しております。

最近のCSR活動としては、地元企業と中学生との交流事業「しながわ職場歩き」などの地域振興事業の他、下記に紹介したビーチバレー選手への後援や、バスケットボールチームや、サッカークラブチームなどへの支援など、各種スポーツ振興活動へも力を入れております。

ビーチバレー選手とスポンサー契約

2017年4月、当社は女性ビーチバレー選手、長谷川暁子さんとスポンサー契約を締結しました。

長谷川選手は、元バレーボール選手として長きにわたりVリーグで活躍し、2015年にビーチバレーに転向しました。2015～2017年度に開催された国内外の各大会で優勝を果たすなど、日本ではトップレベルの実力の持ち主です。その高い技術と強靱なフィジカルには定評があり、2016年度からビーチバレー日本代表強化指定選手にも選出されています。

当社ではかねてより、2020年東京オリンピックにて品川区がビーチバレーボール競技の会場となることを受けて、地元企業としてビーチバレーの後援を続けて来ましたが、このたびさらなる競技の振興と発展を目指して、東京オリンピックでのメダル獲得に向けて強化に励む長谷川選手をバックアップしていくことといたしました。



長谷川暁子選手（左）

Pick Up!

外部からの視点

≫ 社外取締役が語る大成温調 ‹‹

－社外取締役の立場から見て、監査等委員会設置会社に移行後、経営陣の意識改革などについて、皆さんの印象をお聞かせください。



伏見 隆見

伏見 移行前に比べて取締役会での議論が活性化してきました。以前よりも組織全体が情報を共有しようという意識に向かっており、トップが持っている情報もタイムロスなくこちらに入ってくるので、我々も執行に係るところまで入り混んで監査等委員の立場から色々な物言いができるようになりました。外部からの違う視点での意見に耳を傾け、内部できちんと議論する環境が整ってきていると感じます。

大久保 自由な議論がなされていることを実感します。

公文 ガバナンスの強化ということでは、すべてにおいて外部の視点、情報開示をととも意識しているように感じられます。



公文 健二

伏見 本音と建前の乖離がなく非常にオープンな印象を受けます。他社に比べ言いたいことを率直に述べる雰囲気があるように思います。所属に拘らない組織横断的な発想を持った社員の方々が増えていることが、幅広な議論に結びついているのではないのでしょうか。

公文 まさに監査等委員会設置会社の本来の趣旨が生かされていると思います。

－これからの大成温調について

大久保 課題は山積みしていますが、何とか課題に対応していこうという意欲があり、硬直化していないところが良いと思います。それだけ伸びしろがあることとなります。

伏見 会社全体がもっと洗練されて、そこに役職員の魂が入って行けばより大きな収益を上げられる会社になる期待感がありますね。

大久保 私の場合は監査役から社外取締役、そして現在の監査等委員とこれまで会社と様々な立場で接して来ています。監査委員としての立場だけでなく、取締役としての立場から会社の将来像や、現状の問題点などについて、常に意識するようになっています。これからの「攻めのガバナンス」をどうしていくかが今の課題ですね。



伏見 隆見

株主の皆さまの声を聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆さまの声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。

お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄冊(図書カード500円)を進呈させていただきます



<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 1904

いいかぶ

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからアクセスできます。



※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2media)についての詳細 <http://www.a2media.co.jp>

※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com

会社概況・株式情報

会社概況

商号 大成温調株式会社
 本社 〒140-8515
 東京都品川区大井一丁目47番1号
 TEL.03(5742)7301(代)
 FAX.03(5742)4551

創業 昭和16年4月3日
 設立 昭和27年12月22日
 資本金 51億9,505万7,500円

従業員の状況
 (平成29年3月31日現在) 656名

ネットワーク 平成29年6月27日現在

大成温調株式会社

本社・支店 本社(品川区)、東北(仙台市)、関東(さいたま市)、東関東(千葉市)、横浜(横浜市)、静岡(静岡市)、名古屋(名古屋市)、大阪(大阪市)、九州(福岡市)

営業所 青森(青森市)、盛岡(盛岡市)、秋田(秋田市)、山形(山形市)、郡山(郡山市)、茨城(つくば市)、宇都宮(宇都宮市)、群馬(太田市)、千葉県南(鴨川市)、東都(荒川区)、江東(江東区)、多摩(立川市)、厚木(伊勢原市)、山梨(中央市)、新潟(長岡市)、三島(三島市)、滋賀(大津市)、京滋(京都市)、神戸(神戸市)、奈良(奈良市)、和歌山(和歌山市)、広島(広島市)、四国(高松市)、沖縄(那覇市)

サービスステーション 城南(品川区)、城北(品川区)、中央(品川区)、東都(荒川区)、城東(江東区)、城西(杉並区)、多摩(立川市)、横浜(横浜市)、厚木(伊勢原市)、千葉(千葉市)、大宮(さいたま市)、太田(太田市)、宇都宮(宇都宮市)、我孫子(我孫子市)、静岡(静岡市)、大阪(大阪市)、福岡(福岡市)

株式の状況 平成29年3月31日現在

- 発行可能株式総数 …………… 27,500,000株
- 発行済株式の総数 …………… 7,182,487株
- 株主数 …………… 1,627名
- 大株主の状況

株主名	持株数	持株比率
ア ク ア ウ エ ッ ジ (株)	993千株	15.2%
大成温調取引先持株会	822	12.6
水谷日出夫	556	8.5
河村和乎	401	6.1
一般財団法人ぺんぎん奨学財団	350	5.4
大成温調従業員持株会	345	5.3
青木鋭衛	90	1.4
和田ふみ子	75	1.1
(株)みずほ銀行	73	1.1
河村昌平	59	0.9

(注) 上記のほかに自己株式(649,356株)を保有しており、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 毎年6月
 基準日 毎年3月31日
 定時株主総会・期末配当 中間配当を行う場合には9月30日
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 (郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 (電話照会先) ☎0120-782-031
 (インターネット) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>
 ホームページURL
 公告方法 電子公告の方法により、当社ウェブサイトに掲載して行います。
 ただし、電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

※その他ご不明な点は、上記の三井住友信託銀行株式会社証券代行部にお問い合わせください。

当社及び重要な関係会社（大成温調のグローバルネットワーク）

- 大成温調機電工程（上海）有限公司
- 大成温調香港工程有限公司



- 大成温調株式会社
- 温調エコシステムズ株式会社
- ペンぎんアソシエイツ株式会社



- ALAKA'I MECHANICAL CORPORATION
- TAISEIONCHO HAWAII, INC.



- TAISEI ONCHO INDIA PRIVATE LIMITED



- TOP ENGINEERING VIETNAM COMPANY LIMITED
- SEAPRODEX REFRIGERATION INDUSTRY CORPORATION



※戦略的パートナー

- TAISEI ONCHO AUSTRALIA PTY. LIMITED
- NT AUSTRALIA PTY. LIMITED



人の呼吸にもっと優しく

TAISEI
ONCHO

大成温調株式会社

ISO 9001 登録
14001

本社 ● 〒140-8515 東京都品川区大井一丁目47番1号
TEL.03 (5742) 7301(代) FAX.03 (5742) 4551



UD FONT

見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。